



インド工科大学ハイデラバード校 (IITH) と材料研究のための学術連携センターを開設 ～コロナ禍後の研究交流強化を目指して～

配布日時：2021年5月14日 14時

国立研究開発法人 物質・材料研究機構
インド工科大学ハイデラバード校

概要

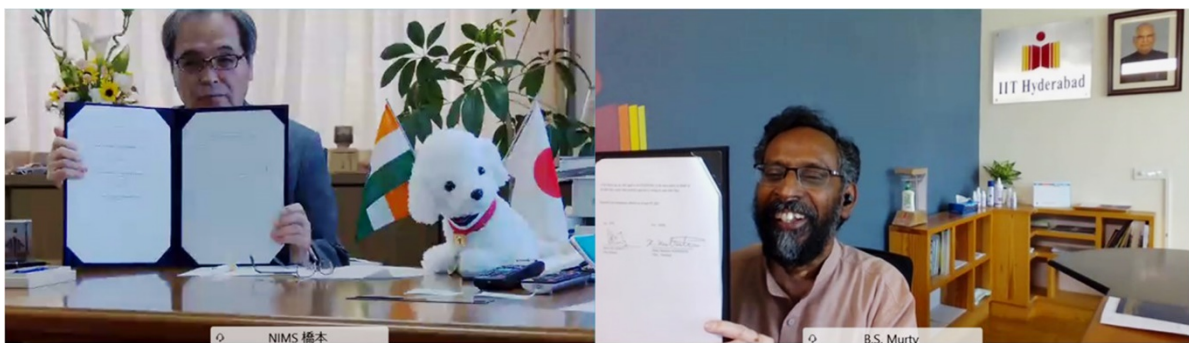
インド工科大学ハイデラバード校 (Indian Institute of Technology Hyderabad (IITH), Director : Prof. B. S. Murty, インド テランガーナ州 サンガーレッディ地区 カンディ) と 国立研究開発法人 物質・材料 研究機構 (NIMS 理事長: 橋本和仁, 茨城県つくば市) は、2021年4月6日付で、「NIMS-インド工科大学ハイデラバード校連携研究センター」開設のための契約を締結しました。

IITH は、理工系教育で世界的に名高いインド工科大学(IIT)の一つであり、中でもハイデラバード校は日本の外務省と国際協力機構 (JICA) から技術・財政支援を受けて設立された経緯^{*1}から、日本とのつながりが特に深く、国内の企業や研究機関から注目を集めている^{*2}大学です。IITH と NIMS は2019年11月に、研究者の交流と情報交換を目的とした、機関間の包括的な研究協力の推進に関する協定を締結し、さらに、2020年に国際連携大学院協定を結び、博士課程の大学院生が NIMS で最長1年研究滞在できるようになりました。この度、両機関の材料分野での強みを相補的に活かした共同研究をさらに発展させるために、IITH の若手教員がサバティカル休暇^{*3}期間中に大学院生を伴って NIMS に滞在し、NIMS の研究者と持続的な共同研究を実施するための「NIMS-インド工科大学ハイデラバード校連携研究センター」を開設しました。

上記のように、IITH は日本と強い特別な絆で結ばれています。このセンター開設は、この絆をさらに強化し、両国の将来を担う研究者が材料科学の分野で最高の成果を出せるよう支援します。

初年度は、インド国内において今後大きな成長が期待される産業分野 (デジタル情報通信及び低炭素社会関連分野) への貢献が期待される2課題が採択されました。今後、本センターを核にして、日印材料技術ネットワークの強化に貢献していきます。

現在、両機関の研究者は、オンラインでの情報交換や、試料提供によって、コロナ禍後の研究協力を備えています。



写真：橋本和仁 NIMS 理事長 (左) と B. S. Murty IITH 学長 (右)
(センター設置契約に係るオンライン調印式の様子)。

補足説明

インド工科大学ハイデラバード校 (IITH) について :

2008年にインド政府により新設されたインド工科大学6校の1つであり、開設以来、12年という短い期間において、インド教育省により公表されたNational Institutional Ranking Framework (NIRF)で4年間連続、上位10校のなかに位置づけられています。

IITHは、237名のフルタイム教員、3397名の学生（うち20%が女子学生）、約200に及ぶ研究室、5つの研究及び起業センターを有する大学です。

物質・材料研究機構 (NIMS) について :

NIMSは、特定国立研究法人として、我が国が強みを有する材料分野におけるイノベーション創出の推進を使命としています。機能材料研究拠点、エネルギー・環境材料研究拠点、磁性・スピントロニクス材料研究拠点、構造材料研究拠点、国際ナノアーキテクトニクス研究拠点、先端材料解析研究拠点、統合型材料開発・情報基盤部門の7研究拠点/部門及び技術開発・共用部門を活用し、NIMSの使命を実現するための取り組みを行っています。

*1 <外務省と国際協力機構 (JICA) からの技術・財政支援>

「インド工科大学ハイデラバード校 日印産学研究ネットワーク構築支援プロジェクト」
通称「FRIENDSHIP」プロジェクト（英文名称：“the Project for Future Researchers at IITH to Enhance Network Development with Scholarship of Japan”）

インド政府はIIT-Hの新キャンパス施設のうち、IIT-Hの教育・研究環境の中核となるような学科棟、大講義棟、図書館などの施設整備に対して円借款による日本の支援を、日本政府に要請しました。これを受け、IIT-Hの新キャンパス施設のうち、日印の人材交流のシンボルとなりうる6施設（国際交流会館、学生会館、ビジネス・インキュベーションセンター、国際会議場、総合研究センター、中央図書館）に対して、「FRIENDSHIP」(JICA) プロジェクトを通して、現在支援が継続実施されています。

参考URL:

https://www.jica.go.jp/india/office/activities/program/01/news/20130416_02.html

*2 <国内の企業や研究機関から注目を集めている理由：IITH支援コンソーシアム>

IITH支援コンソーシアムは、外務省が主管し、大学（東京大学、大阪大学、慶應義塾大学（ほか））、民間企業、総務省、文部科学省、国際交流基金、JICAがメンバーとして参画し、オールジャパン体制での産官学による効果的なIITH支援の実現に向けた活動を続けています。

具体例として、企業ではインターンシップ受け入れ、採用検討、大学では博士課程への進学機会の提供を行うなどの活動を行っています。

NIMSも、2021年から、このコンソーシアムに参加しました。

*3 <サバティカル休暇>

一定の年数勤務後に与えられる長期休暇。国や所属機関によって条件となる勤務年数や休暇期間は異なるが、6から7年間の勤務ごとに最大1年程度の休暇が与えられる。研究者は海外機関で新しい研究テーマにトライしたり、書籍執筆などに利用する例も多い。

本件に関するお問い合わせ先

(研究内容に関すること)

国立研究開発法人 物質・材料研究機構 グローバル中核部門グローバル連携室
室長 黒田聖治 (くろだ せいじ), または 特別専門職 森 利之 (もり としゆき)
E-mail: academic-collaboration@nims.go.jp
TEL: 029-859-2444 または 029-860-4395
URL: <https://www.nims.go.jp/>

(報道・広報に関すること)

国立研究開発法人 物質・材料研究機構 経営企画部門 広報室
〒305-0047 茨城県つくば市千現 1-2-1
TEL: 029-859-2026, FAX: 029-859-2017
E-mail: pressrelease@ml.nims.go.jp